

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

NICE (日本国際ワークキャンプセンター) 創設者・代表 開澤 真一郎
国際ワークキャンプでパワーアップする! 地域づくり
～環境・農業・教育・福祉に、世界の若者+地域の住民～

カラフルな国際ボランティア活動!

ワークキャンプとは「合宿型ボランティア活動」のことです。ボランティアが共に暮らしながら、地域づくりに住民とともに取り組みます。そのうち、世界中からボランティアが集まるのが「国際ワークキャンプ」です。

その始まりは1920年。大戦で壊された農地を独仏の若者たちが再建しました。それから世界中に広がり続け、現在約90か国・3,000か所で開催しています。



福島県昭和村では、農家のお手伝い

ワークの内容(森や畑の再生、子どもキャンプ・障がい者施設・祭りのお手伝い、寺や城の修復など)や、期間の長さ(2日間から数か月間)、人数などは、地域のニーズに応じて決めています。集まる人の国籍・年齢・職業・性格(女性・若者が多い)もさまざまで、とにかくカラフルです。

宿泊は公民館や学校など、大部屋・寝袋で雑魚寝して、食事も交代で自炊するが多いので、予算も手間もあまりかからず、多くの住民の方が

ふらっと寄ったり、普段着で加われます。

例えば、こんな成果・特色も



福岡県：3か月で300mの遊歩道が完成!

まず、地域の課題解決に新しい力が生まれます。目に見える物理的な作業成果だけでなく、例えば

- ・被災地の漁師が再びやる気になった(岩手県)
- ・フランス人が帰国後に自然食品屋を紹介し、有機茶の商売が始まった(京都府)

などの声が寄せられています。

また、外からの「風」で地域が活性化します。

- ・中学生が祭りに来るようになった(福島県)
- ・住民同士で新しい協力が始まった(大阪府)
- ・ボランティアが第2の故郷として戻ってきた。就農・就職・結婚する人も続出!(多数)

国際交流や人材育成においては、あえて狙い過ぎないことでたくさんの深い成果を得ています。「仲良くなろう」と言って仲良くなったり、「こう育てよう」とするのではなく、共に汗を流し、笑い(ときにはケンカもし!)、食べ、語りながら、自然に仲良くなり、育つ場となっています。

企画しているのはどんな人たち？

国連・ユネスコにあるCCIVS (国際ボランティア活動調整委員会)に加盟する各国の「ワークキャンプNGO」が、各地でNPOや自治体と企画・運営し、ボランティアを送り合っています。

ボランティアは渡航費を自己負担する代わりに、各地の受入側が宿泊・食事を提供しています。

ワーク以外に、ホームステイや座談会、スポーツ、遠足、学校訪問などが組まれることも。



マレーシアの山奥で、先住民の子どもたちと

日本やアジアで企画する、NICE (ナイス)

7人の無名な若者で1990年に結成されました。

さまざまな生態系・文化・個性・共同体がいきいきと共生する「ヘルシーでカラフルな世の中」を目指します。22年間で3,189回のワークキャンプを開催、49,095人のボランティアと約100万人の住民が参加しました。現在専従職員が13人、会員は11,756人、元気でオープンなNGOです！

CCIVSでは副代表、26団体が加盟するNVDA (アジア・ボランティア発展ネットワーク) では代表として、アジアと世界をリードしています。

ただ、自分たちだけでは大したことはできません。各地域にパートナーがいてこそその活動です。そして外からお金や技術を持ち込むのではなく、地域が主役になり、外からも共に加わります。炭焼き名人のじいさん、煮物の達人のばあちゃん、あちこちで埋もれた「宝」が新しい形で活躍しています。

自治体ともいろいろと連携しています！

1つめは、ワークキャンプの共催 (福井県勝山市、岐阜県高山市など)。また教育委員会 (岩手県陸前高田市) や社会福祉協議会 (長崎県雲仙市)、国際交流協会 (複数例あり) など、行政と関係の深い団体との共催もあります。地域おこし協力隊員が企画した例もあります (三重県熊野市)。

2つめは、地元のNPOとNICEが共催しているワークキャンプへの協力 (多数例あり)。地元参加者の募集広報、宿泊施設・活動資金の提供など。

他にも、田舎で働き隊 (去年は11か所で開催) を通じた協力、自然保護協議会への参画 (大阪府富田林市)、村の若者の渡航費補助などがあります。

また企業や教育機関との連携も発展させていて、社員の研修やCSR活動、学生のゼミ合宿を「グループ・ワークキャンプ」として国内外で企画したり、大学や小中高校の授業を運営しています。

一緒に力を合わせましょう！

今後は自治体などとの協働をもっと発展させていきたいです。お気軽にお声を掛けてください！

- ①国際・週末ワークキャンプや長期ボランティアの共催。開催地は年々増えていますが、常時募集中。内容・期間・人数なども応相談です。
- ②地域の若者たちの海外派遣。90か国・3000か所から選べます。グループの企画もできます。
- ③姉妹ワークキャンプの実施。森・高齢者福祉など、共通テーマで世界の現場とつながれます。
- ④職員研修やボランティア休暇の受け皿にも。普段の仕事への効果は、企業との協働で実証済み。
- ⑤ワークキャンプ・センターの共同運営。関西に加えて、今年は東北・九州でもセンターを開設。ワークキャンプは地域主体で企画されるものなので、よりきめ細かな単位で展開する予定です。もちろん、ワークキャンプで全てが解決する訳ではありませんが、今までなかった成果を生む1つの面白いツールです。ぜひ、やってみませんか？